



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2022年12月 第7号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ:ハッピー・ホリデー!

12月には様々なホリデーが世界中で祝われています。今回は、その中のいくつかを紹介します。

冬至

地球の赤道傾斜角が約23度になっているので、冬至は一年間で夜が最も長い日であり、一般的に12月21日か22日に当たります。冬至は昔から世界中の人々にとって大切な時期であり、様々な祝祭があります。世界各地の遺跡は冬至を祝うために建てられたとされています。例えば、イギリスにある世界文化遺産として登録されたストーンヘンジは冬至の夕日の位置に正確に沿って建てられています。



左:夕刻のストーンヘンジ 右:サートウルナーリア祭

実は、現代のクリスマスの習慣の殆どは昔の冬至の祝いに基づいています。例えば、古代ローマ人は冬至の前後にサートウルナーリア祭を祝

い、ご馳走を食べたり、お酒を飲んだり、プレゼント交換をしたりしました。4世紀にカトリック教会のローマ教皇はキリスト教への改宗者を増やすため、本当の日付が分からないイエスキリストの誕生日を、サートウルナーリア祭と合わせて12月25日に正式に決定したと言われています。そして、中央ヨーロッパと北欧に住んでいたゲルマン人はユールという祭日を祝っていましたが、炉で薪を焚いたり、ハムを食べたり、近所の家に行って歌を歌ったりする習慣がありました。このユールの習慣は現代のクリスマスの習慣になっており、それぞれ「ユール・ログ」、「ユール・ハム」、「ユールタイド・キャロル」と言います。フランスの伝統的なクリスマス・ケーキのビュッシュ・ド・ノエルはユール・ログのイメージで作られています。

私も冬至を祝ったことがあり、アイルランド系アメリカ人の友達が毎年冬至の夜に家の庭で大きな焚き火をしていたので、何回か参加しました。



暖炉で焚いているユール・ログ



ビュッシュ・ド・ノエル



スウェーデンのユール・ハム



メノーラー

ハヌカーはユダヤ教の人々が祝う「光の祭り」です。日付がユダヤ歴で決まり、毎年異なりますが、11月と12月の間に行い、8日間祝います。2022年のハヌカーは12月18日から12月26日までです。

クリスマスと同じ時期ですが、クリスマスとは関係ありません。約2200年前に、古代ギリシャがユダヤ(現代のイスラエル)を統治しており、ユダヤ教を禁止しました。ギリシャ人はエルサレムにあるユダヤ教の神殿をゼウスの礼拝のために使用するようになりました。しかし、ユダ・マカバイというゲリラ兵がユダヤ人の反乱を導き、神殿をユダヤ人に戻しました。神殿を清めるために、メノーラーという聖なる燭台を点灯する必要がありましたが、燃料が一日分のオリーブ油しかありませんでした。伝説によると、その少しの量の油でメノーラーが8日間点灯し、それは神様の奇跡でした。その理由から、ハヌカーは8日間祝います。

ハヌカーの祝い方は、毎晩日が沈んだ後、メノーラーのろうソクを一本点灯します。燃料の「油」がとても大切なので、ハッシュポテトに似ているラトケスというポテトパンケーキやスフガニーヤ



①ラトケス ②スフガニーヤ ③ハヌカー・ゲルト ④ドレイドル

ハヌカー

ーというジャム入りドーナツなどの揚げ物を食べます。ハヌカー・ゲルトというコインの形をしているチョコレートをお子様達にあげます。ドレイドルという木製のコマで遊びます。毎晩プレゼント交換もします。



「ザ・ハヌカー・ソング」を歌うアダム・サンドラーさん

私はユダヤ教ではありませんが、ハヌカーの時に、時々父からハヌカー・ゲルトをもらいました。(ちなみに、私の高祖父がユダヤ教からキリスト教に改宗しました。)そして、クリスマスの時に、クリスマス・ソングに加えて、90年代に大人気のユダヤ教のコメディアンのアダム・サンドラーが作曲した「ザ・ハヌカー・ソング」をよく聞きます。クリスマスを祝わない理由で仲間外れになったユダヤ教の子ども達を励ますために、ユダヤ教の有名人を面白くリストアップした歌詞になっています。



メノーラーとユダヤ教の民族衣装のヤームルカ。

クワンザ

クワンザはアフリカ系アメリカ人の文化を祝うためのホリデーであり、毎年12月26日から1月1日まで祝います。1966年にマウラナ・カレンガというアフリカ研究者によって創始されました。アメリカの60年代はアフリカ系アメリカ人公民権運動があり、各地でデモや暴動があったため、カレンガ博士はアメリカの黒人を繋げる特別な祭日が必要だと考えました。クワンザはスワヒリ語で「初物の果実」という意味で、アフリカの様々な民族が12月の冬至に開催される収穫祭に基づいています。



左: キナラを点灯する女性。西アフリカ風の民族服を着ています。
右: 収穫祭を代表する色々な作物がマットの上に飾ってあります。

クワンザには7つの原則があり、一日に一つその原則をテーマにします。

- ① ウモジャ(結束:「家族、コミュニティー、国、人種の結束に向けて努力し、それを守ること」)
- ② クジチャグリア(民族自決:「その民族自身で定義し、名づけ、創造し、話すこと」)
- ③ ウジマ(共同作業と責任:「自分たちのコミュニティーを共に築き、守り、兄妹たちの問題を自分の問題とし、一緒に解決していくこと」)
- ④ ウジャマ(共同経済:「自分たちの店、商店、ビジネスを立てて維持し、利益は共有すること」)
- ⑤ ニア(使命:「自分たちのコミュニティーを構築し、発展させることを通じて、伝統的な偉大さを取り戻すという使命を果たすこと」)
- ⑥ クンバ(創造:「常に自分たちのできるやり方で、できるだけことをし、コミュニティーを受け継いだものより、さらに美しく有益なものにして次世代につないでいくこと」)
- ⑦ イマニ(信頼:「自分たちの仲間、両親、先生、指導者、

私達の闘いの正義と勝利をすべての心をもって信じること」)



トウモロコシ、キナラ、クワンザの色になっているアフリカ、キコンバ・チャ・ウモジャ(結束のカップ)。大人は同じカップからお酒をシェアする。

クワンザの習慣は、キナラという燭台のロウソクを毎晩一本ずつ点灯します。ハヌカーのメノーラーに似ていますが、7つの原則を代表する7本のロウソクがあり、黒1本、赤3本、緑3本があります。黒は黒人の肌の色の意味、赤は闘いでこぼれた血の意味、緑はアフリカ大陸の豊富な資源と未来の意味があります。キナラを点灯すること以外にも、家族でご馳走を食べ、プレゼント交換もします。

最初、カレンガ博士は白人が祝うクリスマスの代わりに黒人が祝う祭日のつもりでクワンザを導入しましたが、アフリカ系アメリカ人はキリスト教の信徒が多いため、殆どのクワンザを祝う人はクリスマスも祝います。そして、黒人ではなくても、一緒に祝っても問題ありません。私は小学校でクワンザについて学び、工芸の時間にクワンザの飾りを作りました。



マウラナ・カレンガ博士(真中)とクワンザの祝い

クリスマス

日本人はクリスマスと馴染みがありますね。日本のクリスマスは無宗教で、サンタさんとプレゼントを中心に祝われていますが、他の国ではどんな風にクリスマスを祝っているのでしょうか。江別市には、多国籍の外国語指導助手(ALT)がいますので、聞いてみました。以下のとおり答えてくれました。

<p>アメリカ</p> 	<p>アメリカの最近の流行は、「エルフ・オン・ザ・シェルフ」です。エルフはサンタさんの部下で、子ども達が良い子にしているかどうかをサンタさんに報告します。親が家のどこかにエルフを隠し、毎日子ども達はエルフ探しを楽しみます。私はエルフに見られているのが不気味に思いますので、持っていません。</p>	
<p>スコットランド</p> 	<p>24日に教会に行きます。ディナーはチキンかターキーです。伝統的なデザートはドライフルーツとお酒入りのクリスマス・プディングですが、それよりチョコケーキやアイスクリームなどのお好みのデザートを食べます。クリスマスカード交換も大事で、友達が多いフリをするため、偽物のクリスマスカードを飾る人もいます。</p>	
<p>リトアニア</p> 	<p>クリスマスよりも、クリスマスイブの方が大切な日だそうです。12種類のおかずを食卓に並べます。しかし、料理に乳製品と肉を使ってはいけません。野菜、穀物、ライ麦パン、蜂蜜などでできたご飯を食べます。魚料理も作ってもOKです。12種類を全部味見しないとだめです。</p>	
<p>オーストラリア</p> 	<p>オーストラリアのクリスマスは真夏日なので、海に行って、バーベキューを楽しむ家族が多いです。チキンやハムを食べますが、エビが特に人気の食べ物です。伝統的なデザートはパヴロヴァというメレンゲです。上に生クリームと果物をトッピングします。テレビで古い映画やイギリス対オーストラリアのクリケット大会を見ます。</p>	
<p>インド</p> 	<p>インドはヒンドゥー教が多いですが、場所によって、キリスト教の人も多くいます。例えば、北東にあるマニプル州です。マニプル州では、24日と25日の0時にも教会で礼拝をし、讃美歌を歌います。25日は朝も夜も礼拝をし、皆でゲームをしたり、歌を歌ったり、踊ったり、演劇をしたりします。夜遅くまでワイワイします。</p>	
<p>メキシコ</p> 	<p>メキシコでは16日からポサダを祝います。イエスキリストの両親であるマリアとヨセフのベツレヘムまでの旅にちなんでいます。毎晩、マリアとヨセフ役の子ども達が宿屋役の近所の家を尋ねます。花火を打ち上げたり、ろうそくを点灯したり、星形のピニャータで遊んだりします。トウモロコシでできたタマルを食べます。</p>	



お問合せ先
教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24 番地の 6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434

